

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣良次

2024. 3
No.367

自燃（じねん）

（稲盛和夫「考え方」より）

一生（一所）懸命に働くということは、苦しいことです。

その苦しいことを毎日続けていくには、

自分の仕事を好きになろうと

努めることが必要です。

仕事を愛し、仕事に喜びを見出せる人が、

成功を収めることができるのです。

仕事は決して楽（らく）なものではありません

ん。どちらかと言うと、つらいこと、トラブル

の連続、部下の家庭問題、同僚同志のいがみ

合い等々、毎日が問題・大問題の連続なので

す。

しかし、それが解決した時、対策が出来て
一歩自分が成長した時、知らないことを発
見した時など、考えようによってはいい事、楽
（たの）しい事にならなっていくわけです。それも、
自分自身がどのように自分のスイッチを切り
替えられるかだと思っています。

心に火をつけるのは自分自身

（稲盛和夫「考え方」より）

人間は、自ら燃えていく可燃性の人と、

火を近づけると燃える可燃性の人、火を近

づけても燃えない不燃性の人の三つに大

きく分けられます。

可燃性ならまだしも、不燃性の人はロマ

ンティストの対極の存在です。ロマンティ

ストは自ら燃え上がる可燃性の人でなけ

ればなりません。

社員の皆さんへのアドバイスです。可燃性の

人、せめて可燃性の人になつて下さい。

イナテックでは、「企業理念の勉強会」

「朝の20分間おそうじ」 「社内木鶏会」
等々、色々な社員の皆さんに、ポジティブに
生き、プラス発想できる人材育成もしており
ます。

社内木鶏会は、役職を越えて、イナテック
に集う人が「美点凝視」の精神でお互いがお
互いの素晴らしいところを見つめて認め合う、
そしてお互いがお互いを尊重しつつ、ともに
人間的に成長することであり、企業理念を
探求する場でもあります。

このような機会を利用して、可燃性・可燃
性の人になって、豊かな人生を進んで欲しい
と願うものです。

何かをやり遂げるためにはたいへんな

エネルギーが必要です。そしてそのエネル

ギーは、自分自身を励まし、燃え上がらせ

ることで起こってきます。人から言われた

から、命令されたから仕事をするのではな

く、言われる前に自分からやろうという積

極的な人が、「自ら燃える人」です。

では、自分が燃える一番よい方法とは、

何でしょうか。それは仕事を好きになるこ

とです。「惚れて通えば千里も一里」という言葉があるように、好きになれば苦労など感じません。嫌々やっている、どんなことでも、つらく感じるものです。

仕事を好きになることで、どんな苦労の最中でも、「一生（一所）懸命に打ち込んでみよう」と気持ちを前向きに切り替えることができます。全力を打ち込んでやり遂げれば、大きな達成感と自信が生まれ、次の目標へ挑戦する意志が生まれます。その繰り返しはなかでさらに仕事を好きになり、ますます努力を惜しまなくなり、素晴らしい成果を上げることができます。

イナテックでも同じです。EV（電気自動車）化に対しても、2030年には60%がEVになるとしていた情報も、今では世界中で疑問の意見が続出しています。つまり、今までのトランスミッションやHV・PHVがまだ存在するという情報に変わってきております。苦労に苦労を重ねてきた今までの技術が今もう一度見直されてきているのが、HV・PHV技術なのです。

インフラが整っていないのが世界中の現状なのです。これからもEV化の波は押し寄せて

きますが、もつと仕事を好きになり一所懸命頑張れば、必ず成果を上げることができると思っています。

また、イナテック営業2部の皆さんも試作開発部の皆さんも、自動車以外の分野に出して効果・結果も出てきております。

昨今のダイハツ問題、豊田自動織機の問題によつて、我々の近くの会社さんの中でも、一社依存のため影響が大きい話を聞きます。

悲惨なものです。まだ私共のお客様は問題ありませんのでとりあえず良いのですが、いつダイハツさんや豊田自動織機さんのようになるともかぎらないのです。

改革（ロボット化・自動検査化）は早急に必要ですが、今の技術をもつと深化・進化させれば、すばらしいイナテックになると思っております。

イナテック『行動指針』

良い考え方と人生の哲学を持ち
美しい心を磨く。

『人生の哲学』

- 一、嘘をついてはいけない
- 二、人に迷惑をかけてはいけない
- 三、正直であれ
- 四、欲張つてはならない
- 五、自分のことばかりを考えてはならない

イナテック社員の皆さん！迷ったら、問題が起こったら、この「人生の哲学」に戻って下さい。必ず迷いは取れるはずですよ。
明日に向かって頑張りましょう。

菜根譚後集

九八

試思未生之前、有何象貌、又思既死之後、作何景色、則萬念灰冷、一性寂然、自可超物外遊象先。

試みに、我というものがまだ生まれない以前には、どのようなすがたをしていたかを考え、また、我がすでに死んでしまった後には、どのようなありさまになるかを、よく考えてみよう。（結局、我は無より出て無に帰するので、本然の性だけが永遠不滅である）。そうすれば、（功名富貴のごとき）、もろもろの雑念は火の消えた灰のように冷えてしまい、（本然の性だけが現われてきて）、自然に現実の相対世界を越えて、それ以前の絶対世界に逍遙することができる。